

「教員免許状更新講習」

平成 24 年 11 月 23 日（金）～25 日（日）2 泊 3 日



I 事業の背景（必要性）

学習指導要領では、子どもたちの社会性や豊かな人間性をはぐくむため、その発達段階に応じた集団宿泊活動（小学校）、職場体験活動（中学校）、奉仕体験活動や就業体験活動（高等学校）を重点的に推進するとしている。体験活動の充実を図るためには、教員自らの体験を豊かにするとともに、教員が体験活動に関する基礎的な知識・技能を身につけることが求められる。

そこで、当交流の家では、学校の集団宿泊活動の支援や青少年の体験活動事業の企画・運営を通して体験活動に関する豊富なノウハウを有していることから、体験活動をテーマにした、免許状更新講習を開設することとした。

II 事業の概要

1. 趣 旨

児童生徒の「生きる力」をはぐくむ上で有効な教育活動である、体験活動の意義や指導に関する知識・技術を習得する。また、喫緊の教育課題である防災教育等を含む安全教育について、体験活動の視点から理解を図る。

2. 参加者

(1) 対象

小・中・高・特別支援学校教諭

(2) 募集人数

30名 最小催行人数：10名

※先着順 募集開始5月1日（火）から

(3) 参加状況

<学校別>

校種	男性	女性	合計
幼稚園教諭	0	2	2
小学校教諭	3	4	7
中学校教諭	4	1	5
高等学校教諭	7	2	9
特別支援	2	1	3
その他	1	0	1
合 計	17	10	27

<参加地域>

地域	男性	女性	合計
静岡県	16	10	26
山梨県	1	0	1

<年齢>

年代	男性	女性	合計
30代	6	3	9
40代	8	6	14
50代	3	1	4

※5名キャンセル

(4) 広報の方法

- ① 前年度に開設申請を行い、静岡県ホームページに開設状況を掲載
- ② 東京都、千葉県、神奈川県、山梨県の教育委員会に募集要項を送付、関係各所への連絡を依頼
- ③ 当所ホームページに開催要項と募集チラシを掲載

3. 日程

23日 (金)	10:40		11:00		12:30		14:00		18:00		20:00			
		開講式	教育の現状 と課題	昼食 休憩	「参加型学習」の計画と指導				夕食 休憩					
24日 (土)	9:00				15:00				17:00		18:30		20:30	
	避難生活に活かす野外活動技術 (途中、昼食・休憩を含む)				体験活動と 安全教育		夕食 休憩		「キャンドル」の集 いの進行とレク指導					
25日 (日)	9:30		11:30		13:00		14:30		15:00					
	学校教育におけ る体験活動		昼食 休憩	履修認定試験		閉講式		解散						

4. 内容(活動の様子)

(1) 「教育の現状と課題」

講師：静岡県教育委員会学校教育課長 田中 潤 氏

文部科学省「平成23年度 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」をもとに、学校で問題になっているいじめや不登校の問題などの推移のようすや、問題に対する日常の取り組みについて理解した。

規範意識の低下からくる問題行動の改善には、個の自立と望ましい集団作りに重点を置いた取り組みが必要であり、自己存在感や共感的な人間関係づくりを進めること、自己決定力を高めることなど、自尊感情の高揚を図る必要性について学んだ。

(2) 『「参加型学習」の計画と指導』

講師：NPO 法人体験型科学教育研究所 代表理事 古川 和 氏

児童生徒が自ら課題を見つけ、自ら学び考え、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決する資質や能力をはぐくむための「参加型学習」(発見型学習)を進めるために必要な知識と指導力を身につけた。

実習を中心に行い、学級づくりや授業のヒントになるプログラムを多数体験しながら、学びを促進するファシリテーションスキルの重要性について学んだ。



アンケートには、「チームビルディングの重要性とエクササイズ技法など勉強になった」「ぜひ実践で使ってみたい」という感想があり、学校現場で活かせる内容であった。

(3) 「避難生活に活かす野外活動技術」

講師：国立中央青少年交流の家 次長 小林 真一 氏

補助講師：日本ボーイスカウト静岡県連盟

日本ボーイスカウト静岡県連盟の皆さんを補助講師に迎え、避難生活を想定した野外活動として、調理の方法やブルーシートを使ってテントを立てることなどのスキルを身につけた。

①ロープワーク

ロープどうしや立木への結び方、もやい結びなど基本的なロープワークを学び、立ちかまど作りやテント張りに活かせるようにした。

②立ちかまどの制作

竹や木を組んで、野外炊事に必要なかまどを作った。「避難地をイメージした活動であり、興味深かった」という感想があった。

③アルミ缶を使った炊飯

350ml の飲料用アルミ缶を利用した炊飯と、鍋がなくてもできるホイル焼きの調理を行った。アルミ缶で米一合を炊きあげることができ、身近な物で工夫することを学んだ。「アルミでご飯を炊くことは初めてだったが、生徒や我が子にも体験させようと思った」という感想のとおり、避難生活に役に立つ内容であった。

④テント張り

ブルーシートを使って、グループごとに形の違う簡易テント作りを行った。

防災教育に関する講習を実施したことで、「防災と野外活動について見直す機会になった」「学校現場で、このような野外活動技術をカリキュラムに入れて教えた方がよいと思った」という記述とともに、「班員で協力することの楽しさを感じた」「個々の能力を出し合うことにより、達成感を味わえた」という感想があった。



(4) 「体験活動と安全教育」

講師：至学館大学学生部長 健康科学部健康科学科 教授 平田 裕一 氏

学校外で行った教育活動中に起きた事故を例に挙げ、問題点、課題、対策について分析するとともに、指導者が配慮すべき注意事項について講義を受けた。受講者からは、「たくさんの事例を共有できた。学校での取り組みにも生かしたい」「危険の予測と、事故の要因を知ることの大切さを改めて感じる事ができた」という感想があった。

(5) 「『キャンドルの集い』の進行とレク指導」

講師：国立中央青少年交流の家

次長 小林 真一 氏

補助講師：静岡県レクリエーション協会

副理事長兼事務局長 田井中 正志 氏

学校の集団宿泊活動で人気の高い夜のプログラムである「キャンドルの集い」の進め方と、具体的なレクリエーションの内容や指導方法を



学んだ。

アンケートには、「短い時間の中で、様々な要素をもったレクゲームを体験することができた。指導者として配慮すべき点も教えていただき、ありがたかった」「キャンドルセレモニーでは、気持ちを落ち着かせ、素直な自分を表現することができた」の感想があり、指導方法を学ぶとともに、仲間との和を深められる活動であった。

(6) 「学校教育における体験活動」

講師：文部科学省教科調査官 杉田 洋 氏

体験活動の充実が求められている背景、新学習指導要領で重要とされた体験活動の内容とその教育的意義、言語活動と体験活動の関連について講義を受けた。また、学校・学級づくりに体験活動を取り入れている様子がビデオやスライドで紹介され、感動的なシーンに涙ぐむ受講者が見られた。

5. 評価

(1) 評価の方法

講習の内容や方法、知識・技能の習得、運営面について、記述式と4段階評価によるアンケートを実施した。

(2) 結果

①アンケート集計

(有効回答：27名 4：よい 3：だいたいよい 2：あまり十分でない 1：不十分)

項目	4	3	2	1
本講習の内容・方法についての総合的な評価	19 (70.4%)	8 (29.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
本講習を受講したあなたの最新の知識・技能の習得の成果についての総合評価	23 (85.2%)	4 (14.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
本講習の運営面についての評価	20 (74.1%)	6 (22.2%)	1 (3.7%)	0 (0.0%)
全体平均	20.7 (76.5%)	6.0 (22.2%)	0.3 (1.2%)	0.0 (0.0%)

②アンケートのまとめ

受講者からは、「各講習の構成(順序)がすばらしいと思った。受講生の皆さん同士のかかわりがどんどん増えて、深くなっていくのを感じた」「宿泊を通して、共同生活することが久しぶりだったので、交流の意味でも充実した」「ここでやっていることを皆さんに広めたいと思う」という記述があり、総合的に良い評価だった。

しかし、募集段階で選択領域18時間についての案内が不十分であり、「あまり十分でない」という評価があった。次年度は、募集時の説明や要項への記載をわかりやすくし、受講者に不安を与えない方法を検討する。

(3) 成果

①授業やクラスで実践できるファシリテーションの技術や、具体的なレクリエーションを身につける講座とすることができた。

②野外活動の技術を防災教育に結びつけ、避難生活に活かせる講習して伝えることができ

- た。
- ③交流の家で教員免許状更新講習が開催されていることを、次年度以降の対象者に伝えてもらう機会とすることができた。

Ⅲ 事業の企画と運営

1. 企画のポイント

- (1) 喫緊の教育課題である防災教育を含めた内容で講座を開設した。
- (2) 人間関係づくりや体験活動をキーワードにした講習会とするため、講義・実習の順序を工夫し、受講者の関わりが増えるような展開とした。

2. 運営のポイント

- (1) 受講者の交流を図るため、第一日目の夜に情報交換会を持った。
- (2) 県外や遠方からの受講者のために、前日宿泊ができる配慮をした。
- (3) 講義を行う部屋には湯茶のコーナーを設置し、休憩の間に受講者が気軽に話ができる環境をつくった。

3. 課題

- (1) 受講者の募集にあたって、開催要項やホームページに、選択領域の開設であることや開設される受講時間などを分かりやすく明示すること。
- (2) 履修認定試験の問題は、各講師と綿密な連絡のうえで作成し、時間配分と問題数が適切になるようにすること。必要に応じて、複数の講義を統合した問題にするなどの工夫を行うこと。
- (3) 受講者の利便性を高めるために、近隣の大学と連携し、必修領域の開設を視野に入れること。

4. 参考資料

(1) 参考文献やサイト

e-Gov 電子政府の総合窓口 教育職員免許法

<http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S24/S24H0147.html>

文部科学省 教員免許更新制

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/koushin/index.htm

文部科学省 教員免許更新制リーフレット（二つ折り版，三つ折り版）

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/koushin/001/__icsFiles/afieldfile/2011/12/19/1236009_1.pdf

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/koushin/001/__icsFiles/afieldfile/2011/12/19/1236009_2.pdf

(2) 資料

- ①実施要項
- ②アンケート用紙

担当：加藤英樹，柴田勝好，中村匡寛